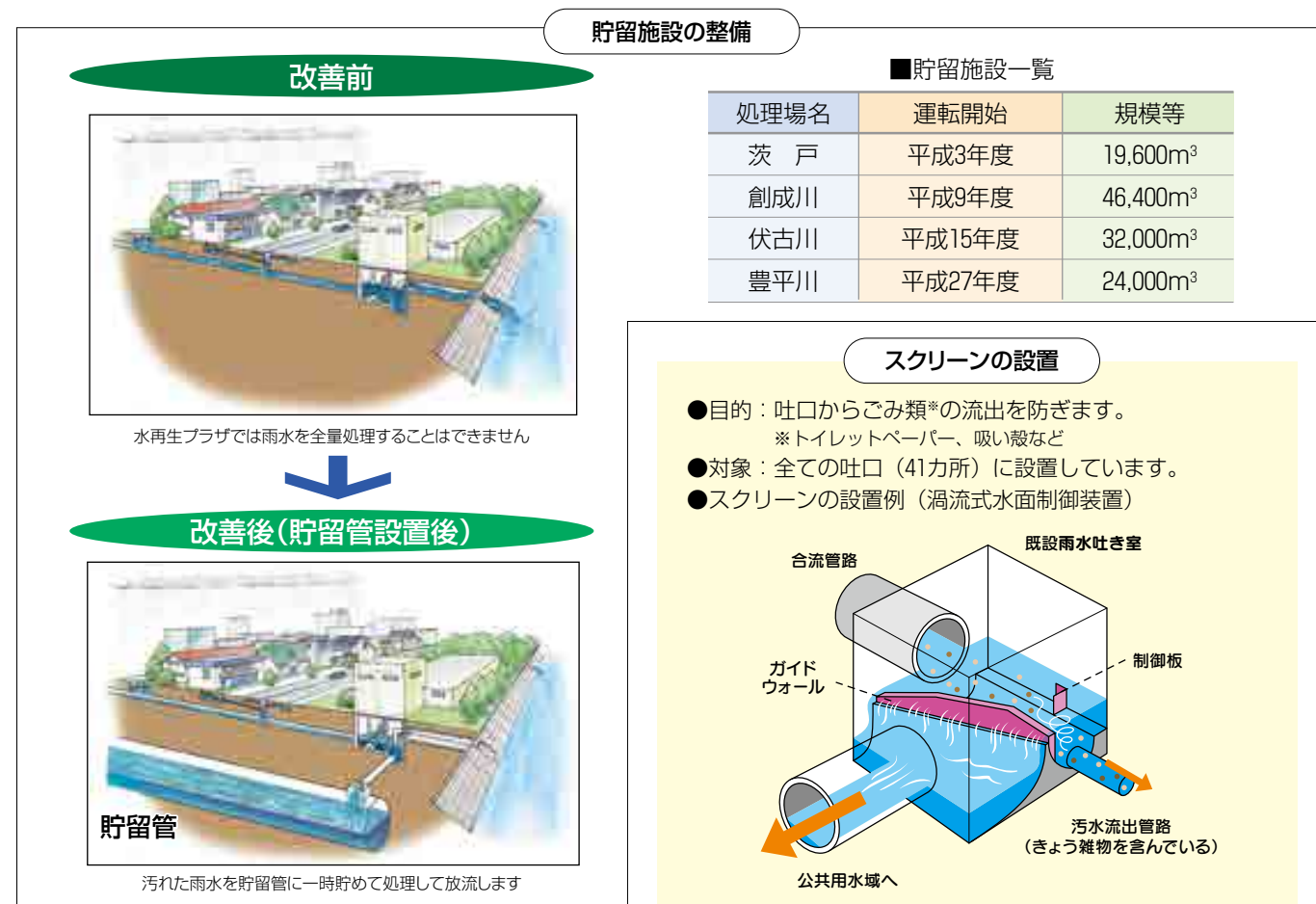


札幌市の場合、下水道施設の放流先の多くが中小河川で、河川水に占める処理水の割合が高く環境に与える影響が大きいこと、また、合流式下水道における雨天時・融雪時の越流水等による汚濁物質の排出があることから、処理の高度化や合流式下水道の改善を行い、汚濁負荷量の削減を図り、健全で清らかな水環境の維持・創出に努めています。

合流式下水道の改善

札幌市の整備区域の約60%を占める合流式下水道では、雨天時における汚濁負荷量の削減のため、貯留施設の整備や吐口へのスクリーンの設置を行い、対策が完了しています。



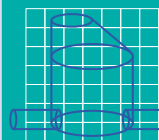
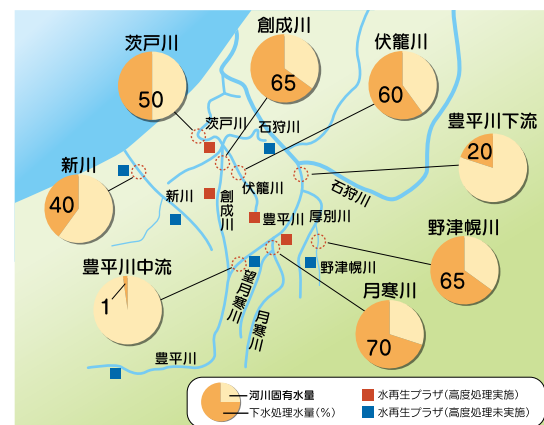
処理の高度化の推進

札幌市では、河川水に占める下水処理水の割合が高い河川において、水質環境基準を達成・維持するため、高度処理の導入や運転管理の工夫により、良好な放流水質を確保しています。

■高度処理導入施設一覧

処理場名	運転開始	能力
創成川	平成3年度	120千m³/日
東部	平成17年度	40千m³/日
伏古川	平成18年度	49千m³/日
茨戸	令和5年度	85千m³/日

■晴天日の河川の水量に占める下水処理水量の割合



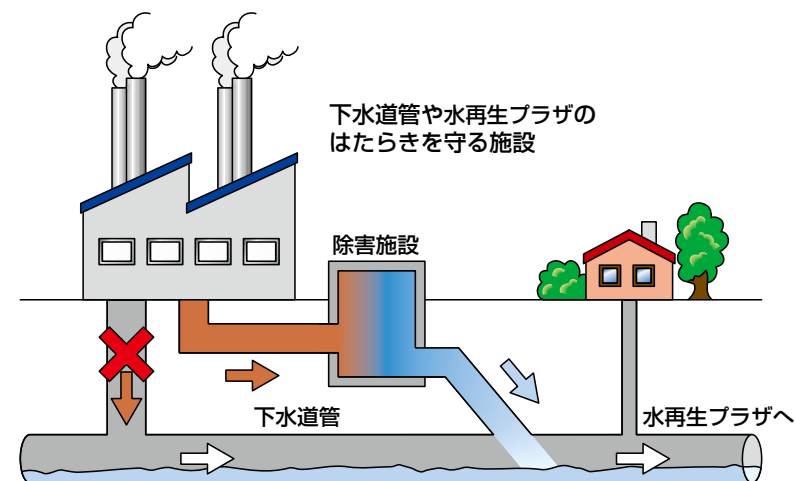
下水道は一般家庭や工場、事業場の排水を受け入れ、水再生プラザで微小な生物の働きによりきれいな水にして河川や海へかえしています。しかし、工場や事業場からの排水の中には下水道施設に悪い影響を与える物質が含まれていることがあります。また、水再生プラザで処理できない物質を流すとそのまま河川や海に流れて環境を汚してしまいます。したがって、そのような物質が下水道に流れ込まないように、工場や事業場からの排水は下水道法と札幌市下水道条例によって厳しく規制されています。

規制を受ける項目と下水道に対する影響（項目は一例です）

規制を受ける項目	下水道に対する影響
水素イオン濃度(pH)	強酸、強アルカリの排水は下水道管を腐食させたり、ほかの排水と混合すると有毒ガスが発生したりすることがあります。
生物化学的酸素要求量(BOD)	高濃度になると、水再生プラザの機能を低下させます。
浮遊物質(SS)	高濃度になると、下水道管を詰まらせます。
ノルマルヘキサン抽出物質(油類)	油が固まって下水道管を詰まらせます。また、水再生プラザで処理しきれない油は環境を汚染します。
シアン	有毒ガスが発生し下水道管内で作業している人に危険が及びます。また、水再生プラザの機能を低下させます。
重金属、有機塩素化合物（トリクロロエチレン、ジクロロメタン等）、農薬類（シマジン等）、ベンゼン、ほう素、ふっ素	水再生プラザの機能を低下させます。また、水再生プラザでは処理できない物質については、そのまま河川や海に流出して環境を汚染します。
フェノール類	水再生プラザの機能を低下させます。
よう素消費量	下水道管内で有毒ガスを発生させることがあります。

除害施設の設置について

札幌市では有害な排水等を出す事業場に対し、下水道に入る前に有害物質等を取り除く除害施設の設置を指導しています。また、定期的に水質検査、立入検査等を行い、排水の指導を行っています。



事業場の立入検査

●問い合わせ先 **事業推進部 排水指導課** (☎011-818-3422)